

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

家族と共に、社会の一員として

数年前、修学旅行から帰ってきた中2の男子生徒に「どうだった？楽しかった？」と聞いてみました。彼の家庭環境を考えると、新幹線もディズニーランドもおそらく初めての経験であろうと想像できました。「すごく楽しかった。このまま時間が止まってほしかった。一生分の運を使い切ったかと思った。」あまりにも嬉しそうに話す彼の姿に、こちらまで幸せな気分になりました。

私たちは、目の前にいる子どもたち一人ひとりのもつ“良さ”を見つけ出し、子どもたちがその良さを自分自身で伸ばし、「社会でどう生きていくのか」をみつめていけるように支援しなければなりません。つまり、私たちが目指すところの子どもたちの「資質・能力」を育て、「確かな学力・豊かな心・健やかな体（知・徳・体）」を身につけ、「社会で生き抜く力」を養うことです。

中学校時代は問題行動を繰り返していた前述の生徒が、子どもをディズニーランドに連れて行き、「どうや！お父さんがいつも言ってたようにすごく楽しいやろう！」とあの時と同じ笑顔で言える日が来ることを願っています。家族と共に暮らせる幸せを実感し、そしてそれを原動力に、社会の一員としての自覚・自信を深めていってほしいと思います。

（ 所長 藪 晃明 ）

教育関係書籍貸し出し中！

ぜひ、ご活用ください

当センターでは、市内の教職員を対象に、教育関係書籍の貸し出しをしています。お近くにお越しの際等に、当センター事務所にお立ち寄りいただき、「蔵書」コーナーの本をぜひご活用ください。

☆新着書籍、過去の書籍等の蔵書は、ホームページで掲載しています。

☆インターネットでの検索方法

「松阪市子ども支援研究センター」と入力

「子ども支援研究センター | 松阪市」を選択「蔵書案内」を選択

☆1回の貸し出し期間は2週間です。

☆書籍の貸し出し状況については、(TEL) 26-1900 までお問い合わせください。



研修講座報告4

B-10 健康教育「学校におけるアレルギー疾患対応について」 講師 長尾 みづほ 先生

先生が会われた子どもたちや保護者の姿をもとにお話をさせていただきました。「かわいそうと思われたくない。かわいそうじゃない。いろんな中の個性。」「その子だけが負担に感じないように、いろんなことを想定して、みんなが気持ちよく過ごせる状況をつくっていく工夫。」等、園・学校現場で日々子どもたちと向き合う私たちが大切にしていきたい言葉をたくさんいただきました。



B-4 情報教育「ICT活用ワークショップ
～NHK for School を活用したアクティブ・ラーニング～」

講師 島田 希 先生
楠本 誠 先生



ICTを活用した学びについて、教材や実践の紹介を通してご教授いただきました。全ての教材やワークシートを自作するのではなく、利用できる指導案やワークシートを活用しながら、ねらいに沿った授業や指導ができることを実感することができました。

受講者のみなさんが、想定される授業について話し合う中で、どのような場面やどの学年で使えるのか等、実践につながる議論を交わされていました。

A-7 道徳「今求められる道徳教育」

講師 赤堀 博行 先生

これまでのいわゆる「教科化」をめぐる状況や、「特別の教科道徳」の特質、教育活動全体を通じて行う道徳教育の進め方等についてご教授いただきました。私たちが学校教育全体や道徳の時間に取り組んできた中で変わらず大切にしていきたいこと、さらに、これまで以上に意識していきたいこと等、学校の取組や自分自身の実践を振り返る時間となりました。



B-16 特別支援教育Ⅰ「秩序ある崩れないクラスづくり～パート3～」

講師 松久 眞実 先生



特別支援教育の観点から秩序ある崩れないクラスづくりについて、具体的な例をいくつも挙げて詳しくお話いただきました。また、特別支援教育をハード面（視覚支援、教室の構造化等）とソフト面（誉め方・叱り方、教師を信頼しているか等）に分けて考えることや、実際に教室の指導で使えるカードや教材等についてご教授いただきました。

B-22 乳幼児教育Ⅳ「音を感じよう、表現しよう

—領域『表現』における保育実践を考える—

講師 福西 朋子 先生

講座の中で、「表現=コミュニケーション」であると教えていただきました。最後に、先生が受講者のみなさんに向け、「4つの活動を種だと思って、現場で花を咲かせてもらえれば」と話をされました。

まず体験し、そのことを言語化したり、先生に理論づけていただいたりすることで、「表現」について一人ひとりが考える機会となりました。

